

LexisNexis PatentSight+ Summit 2025でのTDK講演内容予測

「TDKグローバル知財ガバナンス」講演内容予測

Manus

TDK株式会社 技術・知財本部知的財産権センター ゼネラルマネージャー 小柴亮典氏による講演「TDKのグローバル知財ガバナンス 挑戦と課題」の内容を、収集した情報と業界動向から予測します。

1. 導入部：TDKのグローバル展開と知財ガバナンスの重要性

講演はまず、TDKのグローバル展開の現状と知財ガバナンスの重要性について説明することから始まるでしょう。

1935年に日本で創業したTDKは、現在では世界30カ国以上、250を超える拠点で10万人以上のチームメンバーを擁するグローバル企業へと成長しました。これまで世界中の多数の企業を買収してきたTDKは、現在、売上および従業員の約90%が日本以外という巨大な多国籍企業となっています。

このような多国籍・多文化の企業環境において、知的財産権の保護と活用は事業戦略の根幹を成す重要な要素です。特に、各国の法制度や商習慣の違いに対応しながら、グローバルで一貫した知財戦略を実行することが、TDKの持続的な成長と競争力強化には不可欠となっています。

2. TDKの知財基本方針とグローバル知財ガバナンス体制

次に、TDKの知財基本方針とグローバル知財ガバナンス体制について説明されるでしょう。

TDKグループは、知的財産権を確立、蓄積、活用することにより、新しい製品・サービスの開発、提供を積極的に行い、社会の発展に貢献していくために、第三者の特許を尊重するとともに、第三者にも当社の特許を尊重していただくという知的財産に関する基本方針を掲げています。

TDKグループの知財ガバナンス体制は、グローバル本社としての役割を担う知的財産権センターおよび米国、中国、欧州の主要グループ企業の各知財部門によって構築されています。この体制により、各地域特有の知財問題についてタイムリーに対応しています。

特に、TDKグループの知財ガバナンスは「Empowerment & Transparency（権限委譲と透明性）」を基本として、各国拠点における地域特性を重視し、各拠点の知財マネジメントの独自性を尊重する方針を採用していることが強調されるでしょう。

3. TDKのグローバル知財ガバナンスにおける挑戦と課題

講演の中核部分では、TDKが直面するグローバル知財ガバナンスの挑戦と課題について詳細に語られるでしょう。

3.1 多様な企業文化と知財意識の統合

TDKは世界中の多数の企業を買収してきた結果、多様な企業文化と知財に対する意識が混在しています。これらの多様性を尊重しながらも、TDKグループとしての一貫した知財戦略を実行するためのバランスの取り方が大きな課題となっています。

小柴氏は、この課題に対して「TDK United」の理念のもと、国や会社の壁を越えたグローバルなコミュニケーションと相互理解を促進することで、多様性を強みに変える取り組みについて語るでしょう。

3.2 地域特性に応じた知財戦略の最適化

各国・地域によって知的財産制度や商習慣、市場環境が大きく異なる中で、地域特性に応じた知財戦略の最適化も重要な課題です。

米州地域を例に挙げると、TDK U.S.A. Corporation（TUC）は米州地域本社として、法務・知財をはじめとするガバナンス機能を提供し、グループ会社の連携を支援する役割を担っています。TUCが提供する機能は戦略的視点の提供、業務プロセスの導入、トレーニングなど多岐にわたりますが、パッケージ化された一律の支援ではなく、各社とのオープンなコミュニケーションを重視する柔軟なアプローチを採用しています。

小柴氏は、このような地域本社と各グループ会社の効果的な連携モデルを他地域にも展開する取り組みについて紹介するでしょう。

3.3 新たな技術領域への対応

TDKグループには、それぞれの会社が持つ独自の材料技術やプロセス技術などがあります。それらとソフトウェア技術を組み合わせることで、新たなシナジーが生まれ、これまでのTDKグループになかった新しい事業領域が生まれています。

しかし、これまで積み上げてきた材料技術やプロセス技術に関する特許だけでは、未来の事業を十分に保護することはできません。特にシステムおよびソフトウェアの分野では、技術、イノベーション、そしてビジネス諸機能を包括的に捉える視点が不可欠です。

小柴氏は、このような新たな技術領域に対応するための知財戦略の革新について語るでしょう。

3.4 グローバル人材の育成と活用

多国籍企業であるTDKにとって、グローバルな知財人材の育成と活用も重要な課題です。各国の法制度や商習慣に精通した人材、技術と法務の両方に精通した人材、ビジネス感覚を持った知財人材など、多様なスキルセットを持つ人材の確保と育成が求められています。

小柴氏は、TDKが実施している社員の知財知識の習得や知財実務能力の向上を目指した研修プログラムや、グローバル人材の育成・活用戦略について紹介するでしょう。

4. TDKならではの知財組織の役割定義と取り組み

講演の後半では、TDKならではの知財組織の役割定義と具体的な取り組みについて語られるでしょう。

4.1 ビジネス戦略と知財戦略のアラインメント

TDKでは、知財戦略をビジネス戦略と緊密に連携させることを重視しています。新しく生み出された製品や技術について、知的財産権による法的保護が十分になされるように、事業部門ごとに知財戦略を共有し、事業活動に合わせたグローバルな出願・権利化を行っています。

また、定期的に権利の実施状況を確認することによって、グローバルな知財ポートフォリオの有効活用を図っています。

小柴氏は、このようなビジネス戦略と知財戦略のアラインメントを実現するための具体的な取り組みや成功事例について紹介するでしょう。

4.2 オープンイノベーションと知財保護のバランス

TDKでは、オープンイノベーションを推進する一方で、コア技術の適切な保護も重視しています。技術情報の意図しない漏洩や、権原を有さない第三者による不当なTDKグループの知的財産の侵害を防ぐことはもちろんのこと、第三者への技術提供や共創の場面においても、適切な契約関係を実現することで、技術を保護していくことを推進しています。

小柴氏は、このようなオープンイノベーションと知財保護のバランスを取るための具体的な取り組みについて紹介するでしょう。

4.3 知財情報の戦略的活用

TDKでは、知財情報を単なる権利保護のためだけでなく、事業戦略の立案や技術開発の方向性決定にも積極的に活用しています。特許情報の分析を通じて競合動向や技術トレンドを把握し、経営判断に活かす取り組みを進めています。

小柴氏は、このような知財情報の戦略的活用事例や、PatentSight+などの特許分析ツールの活用方法について紹介するでしょう。

5. 日本の知財組織の将来像についての考察

講演の締めくくりとして、日本の知財組織の将来像についての考察が語られるでしょう。

5.1 グローバル競争時代の日本企業の知財戦略

日本企業がグローバル競争で勝ち抜くためには、従来の日本中心の知財戦略から脱却し、真のグローバル知財戦略を構築する必要があります。特に、意思決定の迅速化、グローバル人材の育成・登用、現地ニーズに応じた柔軟な対応などが重要です。

小柴氏は、TDKの経験を踏まえ、日本企業がグローバル知財戦略を構築する上での課題と解決策について提言するでしょう。

5.2 AIと知財の未来

AIの急速な発展は、知財の創出・保護・活用の方法にも大きな変革をもたらしています。AIによる発明の特許保護、AIを活用した知財業務の効率化、AIが生み出す新たな知的財産の保護など、多くの課題と機会が生まれています。

小柴氏は、TDKにおけるAIと知財の関わりや、今後の展望について語るでしょう。

5.3 サステナビリティと知財

サステナビリティへの取り組みが企業価値の重要な要素となる中、知財戦略もサステナビリティの観点から見直す必要があります。環境技術の特許戦略、SDGsに貢献する技術の知財保護と活用、ESG投資を呼び込むための知財情報開示など、新たな視点が求められています。

小柴氏は、TDKのサステナビリティ戦略と知財戦略の連携について紹介し、日本企業の知財組織が今後取り組むべき方向性について提言するでしょう。

6. 結論：グローバルで機能する知財体制とは

講演の結論として、グローバルで機能する知財体制の要件について総括されるでしょう。

TDKの経験から、グローバルで機能する知財体制には以下の要素が不可欠であることが強調されるでしょう：

1. **明確なビジョンと戦略:** グループ全体で共有される知財ビジョンと戦略
2. **適切な権限委譲:** 本社による基本方針の策定と地域拠点への適切な権限委譲
3. **効果的なコミュニケーション:** 本社と地域拠点、地域拠点間の効果的なコミュニケーション

4. **多様性の尊重と活用:** 多様な文化・背景を持つ人材の強みを活かす組織文化
5. **柔軟性と適応力:** 変化する事業環境や技術トレンドに柔軟に対応できる体制
6. **ビジネス志向:** 知財活動を事業成果に直結させる視点

小柴氏は、これらの要素を踏まえ、TDKが今後も「TDK United」の理念のもと、多様性を強みに変えながらグローバルな知財ガバナンスを進化させていく展望を示して講演を締めくくります。

講演内容予測の根拠

この講演内容予測は、以下の情報に基づいています：

1. TDKの公式ウェブサイトに掲載されている知財基本方針、組織体制、取り組み等の情報
2. TDKのグローバル展開と多国籍人材構成に関する公式情報
3. TDK U.S.A. Corporationの知財機能に関する記事
4. 小柴亮典氏のプロフィールと経歴情報
5. LexisNexis PatentSight+ Summit 2025の開催概要と講演テーマ
6. 多国籍企業におけるグローバル知財ガバナンスのトレンドと課題に関する業界レポート
7. 日本企業の知財組織の将来像に関する業界動向

特に、TDKが「Empowerment & Transparency」を基本とした知財ガバナンス体制を構築していること、売上・従業員の約90%が日本以外という多国籍企業であること、「TDK United」の理念のもとグローバルな連携を重視していることなど、TDKの特徴的な取り組みを中心に予測を行いました。

また、講演テーマである「TDKのグローバル知財ガバナンス 挑戦と課題」の副題「多国籍人材が多数を占めるTDKにおいて、知財ガバナンスのグローバル化は喫緊の課題となっています。本セッションでは、知財とビジネス戦略のアラインを軸に、グローバルな知財ガバナンス構築における挑戦と工夫を共有。TDKならではの知財組織の役割定義や取り組み、日本の知財組織の将来像についても考察します。」に沿った内容構成としています。